



特集1 都立公園の池で「かいぼり」を行っています

特集2 東京の無電柱化

特別特集 河男子が隅田川の観光スポットを紹介します

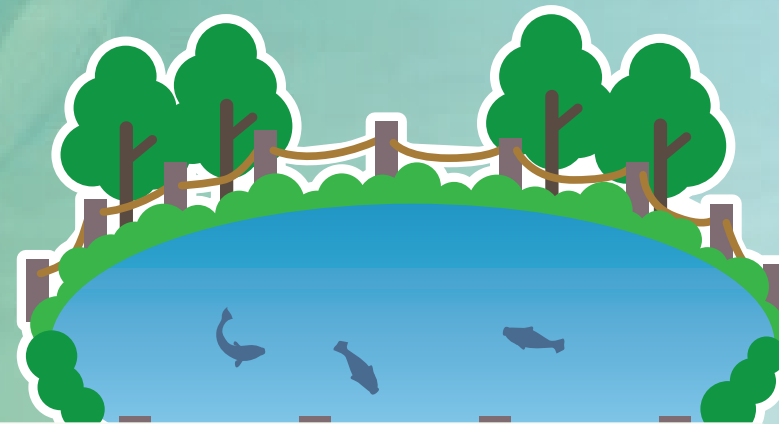
ボランティアと協働でかいぼり(令和元年度水元公園睡蓮池)



捕獲した生物

都立公園の池で「かいぼり」を行っています

都では、水質改善や生態系の回復などの効果が期待できる都立公園の池で「かいぼり」を実施しており、その後の経過を確認するためにモニタリング調査を実施しています。



かいぼりとは

農作業が終わる冬にため池から水を抜き、一定期間干して、清掃、堤や水路の点検補修を行う作業を「かいぼり」と言います。近年は、公園などの池で水質改善や在来種保護を目的に行われる例が増えています。

これまでの取り組み

平成30年度から令和2年度の3年間に、15公園30池で「かいぼり」を実施しました。作業には一般に募集したボランティアの方々に協力いただき、公園の関係者と協働で行いました。この「かいぼりに」3年間で延べ400人の方に協力をいただき、当日は捕獲した生きものや「かいぼり」の事業や、希少種保護について普及啓発展示を実施し、多くの皆様に「かいぼり」の取組を知っていただきました。この「かいぼり」で池の水を抜いて池の天日干しを行ったり、池底の泥を除去したりして、水質悪化の原因となる栄養塩(腐葉土)の減少や封じ込めを行い、水質の改善を図っています。また、在来魚や水生昆虫などを捕食するオオクチバス(ブラックバス)やブルーギル、ミシシippアカミミガメなどの外来種を駆除することで、在来種の保護や、池底を荒らして水質を悪化させ、水草やヤゴなどを捕食するコイを駆除することで多様な生きものが生育できる池の環境に改善を進めています。

令和2年度の「かいぼり」実施状況

令和2年度実施の7池

公園名	池名
水元公園	オニバス池(17号)
水元公園	オニバス池(18号)
水元公園	散策池2
水元公園	水生植物園
水元公園	現況保存池
狭山公園	宅部池
和田堀公園	和田堀池

令和2年度は、7か所の池で「かいぼり」を実施しました。

生物捕獲の当日は、小春日もあれば冷たい雨が降る日もある中、各公園で自然や環境に関わる方々を中心としたボランティアの皆様にお手伝いいただきました。ボランティアから「かいぼりに参加したことで、公園内の活動団体や他地域のボランティアとも交流することができ、生物多様性についての知見や情報に触れることができました。」という感想があり、活動が広がるきっかけとすることができました。

また、捕獲した生きものやパネルを展示し、解説を行いました。子どもからお年寄りまで、興味深く在来種や外来種の展示を見て、生きもののごと、「かいぼり」のことについての解説を聞き入っていました。見学者からは、「アメリカザリガニはよく見かけるが、こんなに多くの生きものがあるとは知らなかった。」「モクスガニがいるのには驚いた。」「ブルーギルが特定外来生物だとは知らなかった。」「いろいろな生きものが暮らせる環境になるといいですね。頑張ってください。」などの感想が聞かれ、「かいぼり」による公園の池の水質改善や生態系の回復への関心の高さがうかがえました。



ボランティアへかいぼりの解説

普及啓発展示

捕獲した生物(コイ:外来種)

捕獲した生物(モクスガニ:在来種)



池の水を排水



生物を捕獲



池底の泥を搬出



池干し

武蔵野の森公園のかいぼりの状況(令和元年度)

今後の取り組み

令和3年度は、3年間に「かいぼり」を実施した30か所の池でモニタリング調査を実施しています。

調査では、水質が改善傾向にある池やこれまで見られなかった在来種が確認された池がある一方で、水質が基に戻った池や外来種が残っている池もあり、取組の途上にあることがうかがえます。

調査結果を基に、今後の「かいぼり」の進め方について検討し、都立公園の池の水質改善と在来種保護を進めていきます。

詳細は、東京都建設局ホームページでお知らせしています。
<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/kouen0056.html>



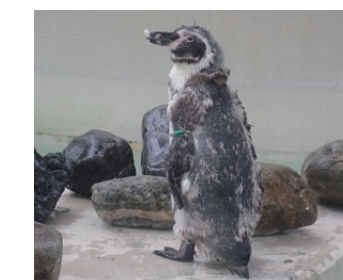
ペンギンはなぜ換羽をする?

井の頭自然文化園 飼育展示係 石田翼

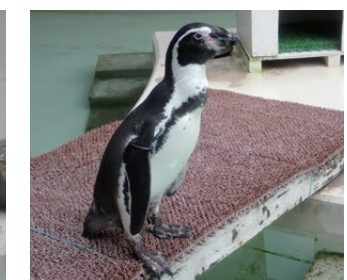
多くの鳥の仲間には1年に1回、古くなった羽毛が新しいものに生え換わります。これは「換羽」と呼ばれ、鳥の仲間が生きていくうえでとても大切な生理現象です。今回は、当園で飼育しているファンボルトペンギンの換羽についてご紹介します。

ファンボルトペンギンは、国内の多くの動物園・水族館で飼育されているペンギンです。野生では、ペルーやチリの海岸や沿岸に生息しています。換羽は日本の飼育下では7月上旬から8月下旬にかけて起こり、約2週間かけて新しい羽毛へと生え換わります。ペンギンは羽毛が古くなると防水・保温効果が弱くなることから、換羽はそれらの機能を回復し、維持するための生理現象だと考えられています。換羽中はこれらの効果もなくなり海に入れず、野生ではえさの魚を捕るのも難しくなります。さらに、換羽にはとてもエネルギーを使うため、ペンギンは換羽前に通常の2〜3倍もの量のえさを食べ、体にたっぷり脂肪を蓄積します。そして換羽が始まると絶食し、巣箱の中でじっと体を動かさずに体力の消耗を抑えながら生活します。

現在、当園では3羽のペンギンを展示しています。今年の換羽は7月14日から8月17日まで観察され、現在、全羽が新しい羽毛へと生え換わりました。当園にお越しの際は、新しい羽毛になって元気に水の中を泳ぎ回るペンギンたちをぜひご覧ください。



換羽中



換羽後

動物園の“かお”

上野動物園 アジアゾウ



2020年10月、上野動物園の開園以来初めて生まれたアジアゾウの子「アルン」(オス)です。*泥を浴びています。
https://www.tokyo-zoo.net/topic/topics_detail?kind=news&inst=ueno&link_num=26759

